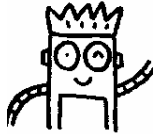


「富国強兵」って、何のことなの



産業をさかんにすることと、軍事力を強くすることだよ

「富国強兵」とは、西洋の経済けいざいのしくみ（資本主義経済）を取り入れて、産業をさかんにし、国を富ませること（富国）と、近代的な軍備・軍制を取り入れて、軍事力を強くすること（強兵）です。すでに幕末ばくまつから、橋本左内はしもとさない・佐久間象山さくましようざんらの学者によってとなえられ、幕府ばくふも「富国強兵」政策せいさくを進めていました。

殖産興業政策しよくさんこうぎょうせいさくによる「富国」

明治政府は、「富国」のために、近代的な生産のしくみを育てる政策（殖産興業政策）を進め、みずから近代的な機械を輸入し、外国人技師を招き、近代的な鉱業・工業をおこし、交通・通信の設備を設けました。例えば工部省は、鉱山・製鉄・機械生産・ガラス生産・造船・鉄道・電信・土木などの事業を行いました。内務省は、製糸ぼうせき・紡績・毛織物生産・農具生産や、穀物こくもつ・野菜・家畜かちくなどの品種改良を行いました。陸軍省・海軍省は、幕府しよはんや諸藩から引きついだ兵器工場や造船所を育てました。北海道開拓使ほっかいどうかいたくしは、北海道で殖産興業政策を進めました。やがて、これらの官営工業・鉱山の多くは経営がむずかしくなり、三井・三菱・古河などの商人に、払い下げられていきました。1873年には地租改正ちそかいせいを行い、農民にかかる税金を重くしました。

徴兵制ちようへいせいから始まる「強兵」

明治政府は、政府に反対する勢力をおさえるためと、外国からの圧力をはね返すために、強い軍備をもつ政策を進めました。1873年には、国民を強制的に兵士にできる徴兵令を発布しました。陸軍には歩兵のほかに騎兵きへい・砲兵ほうへい・工兵などが生まれ、海軍はイギリスから軍艦ぐんかんを買いました。特に1882年以後は、朝鮮ちようせんへの支配を強める清国しんこく（中国）に対抗して、大はばに軍備を増やしました。